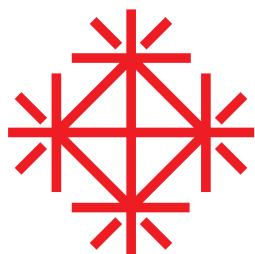




精米の包装、検査、出荷

お米と。あなたと。



KITOKU SHINRYO
木徳神糧

第78期
株主通信

2025年1月1日～2025年12月31日

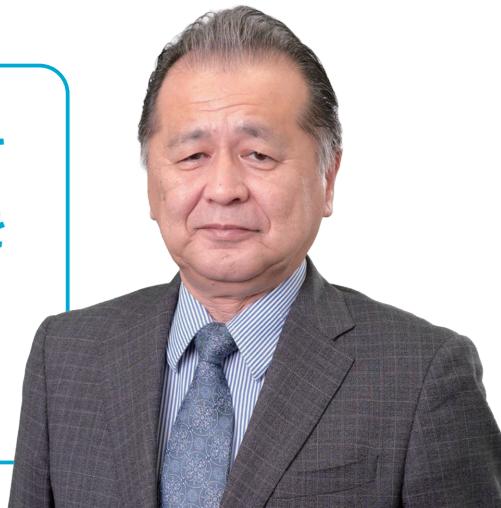
CONTENTS

| | |
|--------------|-----|
| トップインタビュー | 01 |
| 連結財務ハイライト | 04 |
| 木徳神糧ってどんな会社 | 05 |
| 執行役員紹介 | 08 |
| 会社概要・株式情報 | 09 |
| 株主様インフォメーション | 10 |
| こども食堂支援活動 | 裏表紙 |



「コメ食のインフラ企業」を目指して 新たなステージに向けた挑戦を スタートします。

代表取締役社長 鎌田 慶彦



Q 2025年12月期の業績をご評価ください。

A 4期連続の最高益となり、前中期経営計画の
目標数値を達成しました。

令和6年産米の需給がひっ迫した、いわゆる「令和の米騒動」の影響が続くなか、当社グループはお取引先への安定供給を最優先に、調達・仕入・精米・物流の各プロセスにおける最適化に努めました。また、原料仕入価格の変動については、お取引先への丁寧な説明と真摯な協議を重ね、販売価格への適時・適切な反映に努めました。加えて、政府備蓄米についてグループをあげて最速の出荷に取り組んだことや、ミニマム・アクセス米（MA米）の取扱数量の増加等により、4期連続の最高益を更新し、前中期経営計画（2023年～2025年）の目標数値を達成しました。これらの成果は社員一人ひとりの努力と、お取引先など全てのステークホルダーの皆さまのおかげと感謝しています。

業績推移

(単位:百万円)



Q 前中期経営計画を振り返って、どのような成果がありましたか。

A 事業成長に向けた「体制再構築」が、一定の成果につながりました。

「コメビジネスの拡大」においては、米穀事業とコメ加工食品事業の統合による営業力強化、多収・高温耐性品種の導入推進による仕入基盤強化に加え、無洗米加工方式「UMB（ウルトラマイクロバブルプロセス）」設備の導入など、環境配慮型商品のブランディングで一定の成果を

挙げることができました。一方で、昨今の国際情勢もあり海外マーケット開拓には課題も残っています。

「コメ関連ビジネスの成長」では、“事業領域の拡大”をテーマに米穀・飼料・鶏卵の各事業間、国内・海外事業間で情報共有してマーケット拡大に取り組み、鶏卵事業の伸長、海外ビジネスの規模拡大という成果を挙げています。さらには新規事業として循環型ビジネスを推進する取り組みも始まっています。新中期経営計画(2026年~2028年)ではこれらの取り組みを継続し、米穀事業への依存度を減らすべく、飼料事業・鶏卵事業の持続的な成長、新商品・新規事業の推進を図ります。

また、「企業の成長の土台作り」として、業務効率化や人的資本経営の強化に取り組みました。これは引き続き重要テーマであり、特に各事業の成長を担う中核人材の採用・育成が今後の課題です。

Q 新中期経営計画のテーマを教えてください。

A 長期的に目指す「ステージチェンジ」を見据えて「ステップアップ」を図ります。

「令和の米騒動」を契機に、米穀業界は転換期にあります。これまでコメは“薄利多売”の側面があったことは否めません。しかし当社グループが持続的に成長するには、環境に左右されにくい安定的な収益構造による営業利益率2%台の維持のため、事業ポートフォリオを進化させる必要があります。この度、当社のありたい姿として、国内米穀仕入れシェアを拡大しつつ、米穀事業以外の飼料事業、鶏卵事業、新規事業を成長させ安

定した収益基盤を持つ、「米穀卸からコメ食のインフラ企業へ」の「ステージチェンジ」を果たすことを長期ビジョンに設定しました。新中期経営計画の3カ年はその実現のための重要な「ステップアップ」期間と位置付けています。

Q 新中期経営計画における中核戦略を教えてください。

A 3つの戦略「調達力の確保」「コメの消費拡大」「コメ関連事業の規模拡大」を推進します。

まず「調達力の確保」では、社会的使命であるコメの安定調達・安定供給を実現するとともに、安定した収益確保のために価格交渉力の向上を図ります。その一環として国内米穀仕入れにおける当社のシェアを上げるため、コメ取扱量の拡大を目指します。これには「調達力の確保」が必須であり、従来の調達先との関係強化に加えて新たな調達先の開拓に取り組んでいます。当社から「にじのきらめき」など多収・高温耐性品種の種子を生産者やJA等に提供して収穫されたお米を買い取る仕組みや、JA等との共同出資で生産法人を設立するなど、当社独自の調達の仕組みづくりを加速化します。また仕入れ・物流機能の強化に向けた中小米卸のM&Aや、省力化によるコスト削減に向けた次世代工場の建設、他社との協業による日本精米センター(株)設立など、成長投資を積極的に進めます。

海外市場では、ベトナム・中国・タイの現地法人を活用し、無洗米加工方式「UMBIP」を強みに、輸出・現地販売の双方を拡大します。加えて国内ニーズの多様化に即し



で北米・アジアからの輸入米の拡充にも取り組みます。

「コメの消費拡大」では、国産ブレンド米への関心が高まるなか顧客ニーズに合う商品づくりで、自社ブランド(NB)の拡充を軸にマーケティング機能を強化します。同時にコメの健康価値について科学的エビデンスに基づく啓蒙活動を展開し、当社商品の付加価値向上に取り組みます。また、子ども食堂・学校給食への支援も継続します。こうしたコメの消費拡大のための取り組みが、日本のコメ文化・食文化を守ることに繋がると考えています。

「コメ関連事業の規模拡大」では、飼料事業・鶏卵事業の取扱量拡大を目指します。飼料事業では同業他社のM&Aに加えて、鶏糞などの新規取扱いアイテムの追加、ペットフード市場への参入などにより規模拡大を図ります。鶏卵事業は米穀事業との連携によって営業活動を東日本から西日本エリアに広げつつ、M&Aによる生産・販売機能の強化を図ります。また、当社は「UMBP」製法による洗米副生水を液肥や養殖用飼料として商品化する循環型ビジネスを確立すべく、実証研究を進行中で、これら新規事業への取り組みを加速すべく、2026年1月には開発事業部を新設しています。

※新中期経営計画について詳細はP6・P7もご参照ください。

Q

ステークホルダーの皆さまへのメッセージをお願いします。

A

社員とともに計画を実行し、企業価値と社会的存在価値を高めていきます。

新中期経営計画では、人的資本、DX推進、サステナ

ビリティを経営基盤強化の柱としています。なかでも「人」は最も重要な経営資源であり、M&Aやマーケティングなど専門人材の採用・育成や、挑戦を後押しする組織づくりに引き続き注力してまいります。

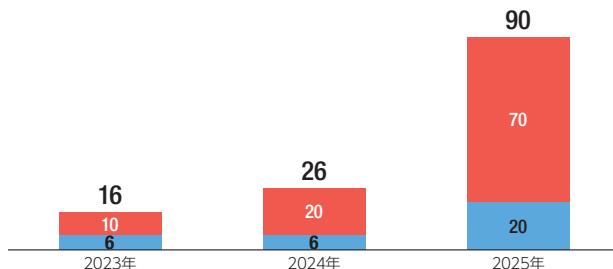
株主の皆さまに対しては、成長投資と財務健全性のバランスを踏まえつつ、連結ベースのDOE(株主資本配当率)2%以上を目安として中長期的な企業価値の向上と株主還元の充実に努めてまいります。

私は社長就任以来、社員一人ひとりの参加意識を高めることを心掛けてきました。今回の新中期経営計画も単純なトップダウンではなく社員とともに策定し実行する計画です。そして食が多様化した今日において、業界内での競争だけではなくコメ自体の魅力を訴求していかなければ、持続的な成長は果たせません。そのために役職員一丸となって長期ビジョンである「コメ食のインフラ企業」への進化に邁進いたします。皆さまには今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

配当金推移

(単位:円/株)

■中間 ■期末



2025年7月1日付で、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しております。これに伴い、同日以前の1株当たり配当金については、株式分割後の基準に換算した数値を記載しております。



連結財務ハイライト

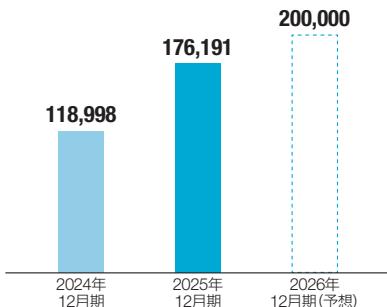
Financial Highlights

決算情報の詳細はコーポレートサイト「業績・財務」をご覧ください。



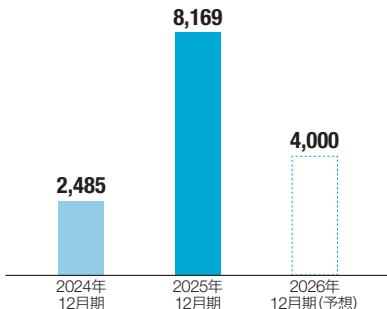
売上高

(単位:百万円)



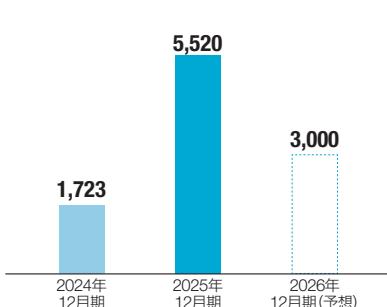
経常利益

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



米穀事業



売上高 **151,325**百万円
(前年同期比 56.7%増)

営業利益 **8,729**百万円
(前年同期比230.3%増)

- 仕入原価が高騰したものの、コメに対する不足感が強いなか、原料調達環境の変化について需要側の理解を得ながら、安定供給の継続を前提とした適正な価格形成に注力。販売単価が前年を大きく上回る水準で推移したことで、増収増益



飼料事業



売上高 **10,556**百万円
(前年同期比 2.2%増)

営業利益 **539**百万円
(前年同期比 8.6%増)

- 飼料用米の取扱い減少の一方、輸入乾牧草の新規開拓・深耕営業への注力と、商品への販売構成の見直しや他の穀類・糖糠類などの増量提案・スポット販売が奏功。加えて輸入乾牧草の採算改善や糖糠類等への販売注力が全体の収益を下支えし、増収増益



鶏卵事業



売上高 **10,882**百万円
(前年同期比 24.6%増)

営業利益 **288**百万円
(前年同期比 5.0%増)

- 鳥インフルエンザ発生の影響による生産減少を背景とした供給量の減少に伴い、鶏卵相場が高値圏で推移したことで、販売数量が減少したものの、仕入先の複線化の推進や販売価格への転嫁が進んだことと、特殊卵の販売拡大等により増収増益



食品事業



売上高 **3,426**百万円
(前年同期比 1.8%増)

営業利益 **38**百万円
(前年同期比 64.4%減)

- 米菓向け加工用原料米の販売が伸び悩んだ一方、コンビニエンスストア向けや製パン用途向けの穀粉販売が堅調に推移したことで増収
- 米不足による原料価格の上昇が続くなか、価格転嫁の反映に遅れが生じたこと等が影響し減益



木徳神糧ってどんな会社？



前中期経営計画の振り返り

(2023年12月期～2025年12月期)

経営理念

コメビジネスを軸に世界中の消費者にコメとコメ関連食品の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

中計テーマ | 体制再構築

事業規模・事業領域の拡大に向けた体制再構築の期間とし、収益体制を作りながら成長を図る

前中期経営計画の主要施策

コメビジネスの拡大

- 多収・高温耐性品種で産地と協力し仕入基盤強化
- UMBP商品のブランディングと拡販
- 海外法人を活用した海外マーケット開拓

コメ関連ビジネスの成長

- 飼料事業・鶏卵事業の持続的成長で米穀事業への依存度を下げる
- 新商品・新規事業の具体化に向けた着実な取り組み

企業の成長の土台作り

- 人的資本経営の強化（ベースアップ、等級要件やスキルマップ等の見直し）

振り返り

達成

- 営業力の強化
- 仕入基盤強化
- UMBPの拡販
- 海外マーケットの開拓



課題

達成

- 鶏卵事業の伸長
- 海外ビジネスの規模拡大
- SDGs関連の積極的な推進
- 米穀事業への依存度減少



課題

達成

- 業務効率化
- 人的資本経営の強化
- 事業成長を担う人的資本確保





新中期経営計画の詳細はIRライブラリに掲載の「新中期経営計画策定のお知らせ」をご覧ください。



新中期経営計画の概要

(2026年12月期～2028年12月期)

経営理念

当社の存在意義は、生産者と消費者の架け橋となることです。
米の安定調達/供給を実現し、食のインフラを支え、日本の食文化を守ります。

新中計テーマ | 「ステージチェンジ」を見据えた「ステップアップ」

米穀事業を軸に関連ビジネスの創造と発展を通して、米穀卸の社会的責任を果たしながら、コメ業界の構造転換をとらえ、米穀卸から米食インフラ企業へ進化するための基盤整備に取り組む

新中期経営計画の中核戦略

基幹事業
● 米穀事業

- ① 調達力の確保
- 安定調達・安定供給の実現
 - 価格交渉力の向上

- ② コメの消費拡大
- お米が主食であり続ける食生活のサポート
 - 自社ブランド (NB) の拡充

成長事業
● 飼料事業
● 鶏卵事業
● 新規事業

- ③ コメ関連事業の規模拡大
- 米穀事業依存からの脱却
 - 安定的収益基盤の確立

長期成長目標

コメ食のインフラ企業へ

2040年到達目標
国内米穀仕入シェア
10%達成

異業種を含めたM&Aの本格化

新規事業の成長

新中期経営計画の各戦略

事業成長戦略

① 調達力の確保

- 国内米穀業界の環境変化に対応すべく、価格交渉力を高め収益の安定性を図ります。収益の安定性確保に向け、調達先の開拓および成長投資を実行します。
- 多様化する外国産米へのニーズに対応すべく、ベトナム・中国・タイにおける現地法人を有効活用しながら、機動的な調達先の確保と販路の拡大を図ります。

2040年目標国内仕入シェア **10%**

※国内産主食用米生産量に占める当社仕入量の割合

2028年12月期目標
海外販売数量 **50,000トン**

② コメの消費拡大

- 「日本のコメ文化・食文化を守る」取り組みの一環として、自社ブランド (NB) の拡充と健康啓蒙活動によりコメの価値最大化を図り、コメの消費拡大を目指します。

2028年12月期目標
NB売上構成比 **40%**

※当社売上高全体に占めるNB商品の売上高の割合

③ コメ関連事業の規模拡大

- 飼料事業・鶏卵事業でのM&Aや販路拡大による事業規模拡大により、米穀事業のみに依存しない収益構造の確立を目指します。
- 新規事業開拓において、洗米副生水や循環型飼料・肥料など未利用資源を利用した循環型ビジネスを構築します。

2028年12月期目標
飼料取扱量 **1.5倍** 鶏卵取扱量 **2倍**

※2025年12月期に対する増加率

経営基盤強化

人的資本

施策実行体制の確立と組織力強化

新たな推進組織と人事基盤の強化により、変革をリードする強い組織を構築

DX推進

意思決定と実行の迅速化

システム基盤刷新に向けた準備を行い、業務効率化と意思決定迅速化を後押し

サステナビリティ

社会的責任の遂行と循環型モデル

コメ文化・食文化の継承と環境課題への対応を通じ、持続可能な社会実現に寄与

財務戦略

基本方針

- ① 事業規模の拡大を通じた売上高・営業利益の増大
- ② 将来成長を見据えた投資の積極的な実行
- ③ 持続的な株主還元の実現

財務目標 2028年12月期 **売上高：2,500億円 営業利益：60億円**

本中期経営計画の財務目標 (連結)

(単位:億円) ■売上高 ●営業利益





執行役員紹介

Messages from Executive Officers

新中期経営計画の戦略実行を担う執行役員の中から、2名をご紹介します。



たけい まさる
竹井 勝 (55歳)

執行役員 (2025年3月27日就任)

米穀事業本部東日本地区生産部門長
桶川工場長兼務

今から約27年前に入社して以来、工場の生産業務や管理業務を中心に、現場主義をモットーとして業務に従事してまいりました。昨年は「お米」に大きな関心が集まる中、使命感を持って政府備蓄米をはじめとする製品を、スピーディーかつ継続的に安定して供給することができ、大変やりがいを感じる一年となりました。

一方で、当社の各精米工場はいずれも竣工から四半世紀を経過し、「安全」「効率」「人材」といった面でさまざまな課題に直面しています。新中期経営計画に掲げる“ステージチェンジ”を見据え、着実にステップアップできるよう、継続的な改善と課題解決に挑戦し、生産性向上と工場の次世代化に取り組んでまいります。



西武ライオンズ外国人選手との記念写真 (写真右)



えびはら しんじ
海老原 真司 (49歳)

執行役員 (2026年3月26日就任)

鶏卵事業統括代行
鶏卵事業部長兼務

鶏卵業界に約30年間携わり、製造・流通・販売まで一貫して幅広い業務を経験してまいりました。現場から営業まで実務を重ねてきたことが、私の強みです。

物流分野では大型トラックやトレーラーの運転にも従事し、現場の実情を深く理解したうえで業務に取り組んでまいりました。また、卸売市場での営業販売では、多くのお客様との対話を通じ、商品の価値や特長を的確に伝える提案力を培ってまいりました。

これまでの多様な経験を活かし、部門の枠にとらわれることなく、組織全体の成果向上に貢献していきたいと考えております。今後は、全国への鶏卵販売拡大に取り組むとともに、加工品の開発にも注力し、新たな販路の開拓を通じて事業の発展に貢献してまいります。



鶏卵事業説明会での発表の様子



一 会社概要

商号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀、飼料、鶏卵、その他食品等の仕入、加工、販売並びに輸出入

本社所在地 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-8
木徳神糧小川町ビル
TEL: 03-3233-5121(代表)
FAX: 03-3233-5131

資本金 5億2,950万円

従業員数 283名(臨時雇用者を除く)

ホームページ <https://www.kitoku-shinryo.co.jp>

一 株式情報(株式分割後)*

- 発行可能株式総数 30,000,000株
- 発行済株式の総数 8,530,000株
- 株主数 4,320名
- 大株主

| 株主名 | 所有株式数 | 持株比率 |
|----------------|-------|-------|
| 木村 良 | 500千株 | 6.12% |
| 濱田精麦株式会社 | 412 | 5.03 |
| 株式会社神明ホールディングス | 400 | 4.89 |
| 大和産業株式会社 | 350 | 4.27 |
| 全国農業協同組合連合会 | 300 | 3.66 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 300 | 3.66 |
| 株式会社三井住友銀行 | 186 | 2.27 |
| 農林中央金庫 | 186 | 2.27 |
| 木徳神糧従業員持株会 | 167 | 2.05 |
| ヤマエ工野株式会社 | 153 | 1.87 |

(注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(351,418株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

*2025年7月1日付で、株式分割(1株を5株に分割)を実施いたしました。

一 役員等(2026年3月26日現在)

| | | | |
|-----------|-------|--------|--------|
| 代表取締役社長 | 鎌田 慶彦 | (執行役員) | |
| 取締役会長 | 竹内 伸夫 | 常務執行役員 | 内田 英一 |
| 取締役常務執行役員 | 稲垣 英樹 | 上席執行役員 | 金子 泰彦 |
| 取締役常務執行役員 | 菅 益成 | 上席執行役員 | 中田 基春 |
| 取締役執行役員 | 山田 智基 | 上席執行役員 | 鈴木 敬夫 |
| 取締役執行役員 | 今野 稔 | 上席執行役員 | 小松 功明 |
| 取締役執行役員 | 鈴木 平 | 執行役員 | 郡司 和久 |
| 取締役(社外) | 柏原 幸代 | 執行役員 | 龍神 崇 |
| 監査役(常勤) | 谷本 和則 | 執行役員 | 竹井 勝 |
| 監査役(社外) | 鈴木 昌治 | 執行役員 | 海老原 真司 |
| 監査役(社外) | 尾崎 達夫 | | |
| 名誉会長 | 平山 惇 | | |
| 名誉顧問 | 木村 良 | | |

一 連結子会社

アンジメックス・キトク有限公司
Highway 91, Thanh An Village, My Thoi Ward, An Giang Province, Vietnam
代表取締役会長 平山 惇

木徳(大連)貿易有限公司
中華人民共和国遼寧省大連市中山区武漢街73号城市広場B座1003室
董事長 平山 惇

キトク・タイランド会社
15th floor, Sathorn Thani Building 190/40-41 North Sathorn Road, Silom, Bang Rak, Bangkok 10500, THAILAND
代表取締役社長 平山 惇

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催いたします。

基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日

配当金受領株主確定日 12月31日および中間配当金の支払を行うときは6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711(通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所

公告方法 電子公告(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)



株主優待のご案内

株主優待表記見直しに関するお知らせ

このたび、株主優待制度につきまして、優待品の内容は従来どおり維持したまま、株主の皆さまにより分かりやすくお伝えできるよう、表記方法のみを実態に即した形へ見直しをいたしました。

本変更は、優待制度の適正な運用および分かりやすい情報提供を目的としたものであり、実質的な変更はございません。

株主優待基準

6月末現在の株主様 (10月頃発送、切り餅は12月中旬発送)

| | |
|----------------------|---|
| 1,000株以上 2,000株未満 | 5kg相当の米穀製品等 または社会貢献活動に対する寄付*1 |
| 2,000株以上 | 5kg相当の米穀製品等 および「切り餅」750g×2袋 または社会貢献活動に対する寄付*1 |

*1 「社会貢献活動に対する寄付」をお選びいただいた場合、優待相当額と同額を当社名義にて寄付いたします。

12月末現在の株主様 (3月頃発送)

| | |
|------------------------|--------------|
| 500株以上かつ 継続保有3年未満 | 5kg相当の米穀製品等 |
| 500株以上かつ 継続保有3年以上*2 | 10kg相当の米穀製品等 |

*2 「継続保有3年以上」とは、6月末日と12月末日の株主名簿において、500株以上の保有が同一株主番号で連続して7回以上記載または記録されていることをいいます。

株主優待制度を通じた寄付のご報告

当社では2025年度より、株主優待制度において、「米穀製品等」または「社会貢献活動に対する寄付」のいずれかをお選びいただける仕組みを導入しております。

第78期中間の株主優待制度においては、寄付をご選択いただいた42名の株主様からの寄付金を、認定NPO法人「全国子ども食堂支援センター・むすびえ」へ寄付いたしました。

本寄付金は、全国の子ども食堂の活動支援に活用されます。

寄付にご賛同いただきました株主の皆さまに、心より御礼申し上げます。

株主優待内容

米穀製品等を年2回贈呈いたします。

6月末現在の株主様は、社会貢献活動に対する寄付をお選びいただくこともできます。

寄付をご希望の場合は、8月頃にお送りする申込ハガキに必要事項をご記入の上、ご返送ください。



※画像はイメージです。

詳細については、株主優待に同封されるご案内をご確認ください。

株主アンケートにご協力ください

株主の皆さまのお声から今後の活動に反映させていただくため、アンケートを実施しております。同封のアンケートハガキにご記入の上、最寄のポストへご投函ください。

何卒ご協力をお願い申し上げます。



こども食堂支援活動



2025年夏、当社は認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえを通じ、全国約4,000か所のこども食堂へ、5キロ40,000袋 (合計200トン) のお米「みんなのお米」をお届けしました。

この取り組みは、給食がない夏休み期間中のこどもたちの食事支援を目的に、お米不足の中、茨城・宮城・福島・北海道など、各産地の皆さまのご協力のもとで特別な調達を行い実現したものです。支援のお米を受け取ったこども食堂を運営する方々からは、「お米の支援が一番うれしい」「お米が手に入らず困っていたところにありがたい」「給食の無い休み期間中、こども食堂の開催日数を増やせた」といった多くのお喜びの声が寄せられました。



「みんなのお米」は、誰もが受け取れる支援を目指して名づけたものです。

全国のこども食堂へ「みんなのお米」をお届け



むすびえの三島理事長にご来社いただき、感謝状を頂戴しました。(左：当社 鎌田慶彦社長、右：むすびえ 三島理恵理事長)



出典：地理院地図 (国土地理院) を加工して作成



こども食堂から届いたメッセージ

また、今回お米とあわせてお届けした米粉を使用した唐揚げ粉やたこ焼き粉も大変好評で、「みんなで夏祭りパーティーをした」「こどもたちが楽しんで調理を手伝っていた」など、多くの参加者が楽しむ機会につながったとの嬉しいご報告をいただきました。

こうした皆さまのお声を通じて、改めて「ただ食べるだけでなく、食を楽しむことが心を豊かにする」と実感しました。こどもたちが安心して、笑顔でごはんを食べられる場を支えてくださる、支援に携わる全ての皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。

当社は、米穀卸からコメ食のインフラ企業への進化を目指して、今後も食で笑顔を届ける取り組みを続けてまいります。

 木徳神糧株式会社

〒101-0052
東京都千代田区神田小川町2-8 木徳神糧小川町ビル
TEL: 03-3233-5121 (代表) FAX: 03-3233-5131

 UD
FONT

見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。

 VEGETABLE
OIL INK

環境に配慮した
植物油インキを
使用しています。

 ミックス
紙に責任ある森林
管理を及ぼしています
www.fsc.org
FSC® C022915